

ISAS No. 09003

議題： JAMA レポート： 虚血性心疾患患者における癌発症及び死亡リスクの上昇と合成葉酸/ビタミン B₁₂ の関係 — ノルウェイにおける症例
著者： Ebbing M, Bonna K, Arnesen E, et al.
資料： Journal of the American Medical Association(JAMA) 2009;
302(19):2119-2126
発表日： 2009年11月18日

研究結論：

2 件の無作為対象化比較試験のフォローアップ結果の解析報告である。虚血性心疾患患者 6,837 名に、平均して 39 カ月間、B 群ビタミンを投与、および 6,291 名に対して、試験後観察的フォローアップ試験を 38 カ月実施した。患者は、無作為に抽出され、下記のうちのうちから 1 種の治療を受けた。

1. 葉酸 (0.8mg/日)、ビタミン B₁₂(シアノコバラミン ; 0.4mg/日)そしてビタミン B₆ (塩酸ピリドキシン ; 40mg/日)
2. 葉酸 (0.8mg/日) にビタミン B₁₂ (0.4mg/日)
3. ビタミン B₆ 単独
4. 偽薬

葉酸に加えビタミン B₁₂ を摂取したグループは、癌発症が全体よりも 21%増加、癌死亡数においては 38%増加、すべての死亡例で 18%増加している。

IADSA の見解：

1. 研究後のフォローアップとして得られたこの結果は、確かとはいえない。明らかにしておかなければならないことは、元の 2 件の研究は、葉酸と癌の関係を調査するような内容ではないことである。葉酸、ビタミン B₁₂、ビタミン B₆ を非喫煙者に投与した研究、及び地理的に異なる場所で行われた研究が、今後の課題として望まれる。著者は、コメント欄で「この結論は、他の対象者で確認されることが必要である。」と述べている。結論として、この研究は、多くの信頼がおける既報の科学情報に文書として残される葉酸の有益な効果から除外されることはない。

2. 人々の健康という視点からは、この研究は、喫煙が肺癌のリスクを高めるというもうひとつの確証を提示している。葉酸を多く摂取した患者群が、なぜコントロール群より肺癌の発症が高いのかは明らかではない。合成葉酸投与群には、例えば、ライフスタイルや職業的な問題で、癌発症が高い率となってしまうような要因があり、そのために結果が悪くなったとも考えられる。重要なことは、これらの結果が、より大規模に行われた既報の科学情報とは矛盾していることである。実際、著者自身が「疫学研究においては、食品由来の葉酸及び合成葉酸と肺癌との間に関係を報告したものはない」と指摘している。もうひとつの矛盾点は、葉酸が、結腸直腸や前立腺の癌には効果がないとしている点である。

3. 明確にはいえないが、既存の科学データを参照するに、消費者や健康に携わる専門家が葉酸を健康食品として日々適量を摂取することの有効性や安全性に問題はないだろう。IADSA では、論文に併記されている JAMA¹ の論説にある「この結論は、葉酸の強化が人々の健康に与える長期的な有益性を無効にするものではない。」という記述をもって結論とする。

参照 Referrace

¹ Drake B, colditz G. Assessing Cancer Prevention Studies- A Matter of Time. Journal of the American medical Association(JAMA) . 2009;302(19):2152-2153